

# うきたむ

第36号

2011.1.20

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585  
FAX 0238 - 52 - 4665



▲ 縄文土器作り（平成 17 年度文化体験プログラムより）

## 実体験の魅力

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

佐藤 鎮雄

昭和四十六年は、僕にとって忘れられない年である。故酒井忠一 致道博物館長に考古学の薫陶を受けた鶴岡の学校から高島の中学校へ赴任した年であり、授業の学級には青木敏雄氏、同学年には井田秀和氏ら生徒がいた。一つ下の学年の歴史の学習で、奈良時代の農民が納めた「租」の二束二把は収穫量の3%と教えたところ、束と把の米の量、一段の収穫量を具体的に問われたのである。学校の本にも、自分が持っている本にも出ていない。分からないと言わせない生徒の眼差しがあった。以来、僕は教材研究ノートの3%しか教えないことにした。教える量は決まっているので教材研究ノートはたちまち数冊になった。

また、押出遺跡を発見したのもこの年であった。ところで、最近、見学や体験学習のため当館を訪れる学校団体は減少気味である。新学習指導要領による授業時間増で来館時間を確保できないらしい。社会科の教科書に書いてあることに疑問をもって探求したり、具体的な歴史資料を実際に見ながら学習する機会はありません。これでは育つ学力とはどのようなものか理解したい。

押出遺跡の土器を見て縄文人の感性や芸術性まで受けとめたり、必死に文様を施して作った縄文土器で調理してみたりする実体験は、現代人の多くがもつ浅薄な知識・学力を超えて大事なものを与えてくれるのではないかと思うのである。

第18回企画展 (展示期間 平成22年10月1日～11月30日)

# 平安初頭の南出羽

## 役所とその周辺

毎年10月と11月は企画展開催期間です。

今年も8世紀後半から9世紀末にかけての出羽国南部(現在の山形県域)の様子を、官衙(役所)関連遺跡にスポットを当てて展示を行いました。

ちょうど一昨年開催し

展示の様子



「出羽の国ができるころ」の、すぐ後の時代にあたります。

当時の出羽国は律令政權が東北にその基盤を固めようとしている時期の山形・秋田両県域にまたがる国です。律令政權にとって、そのかなめとなるのが官衙です。展示ではこの官衙に推定される遺跡や、官衙に関連される遺跡から出羽国の様相を探っていきました。

今回の展示では、その代表的な遺跡である城輪柵跡から出土した資料も数多く展示しました。第4回企画展の時にもその一部を展示しましたが、今回は特に、貼絞胎(はりこじょうたい)の陶枕(とらまくら)と



貼絞胎の陶枕の破片

うちん)が注目されます。高級役人が使ったのでしょうか。中央政權との繋がりがうかがわれる資料で極めて貴重なものといえます。

城輪柵跡出土の資料は他にも瓦や柵木など多数展示しました。

官衙に関連する遺跡としては、城輪柵跡近くにある俵田遺跡が目を引きます。

全国的にも珍しい祭祀の跡が祭祀を執り行ったそのままの配置で見つかったことで有名になり

ました。続日本紀には嘉祥3年(850)に出羽国に陰陽師が派遣された旨が書かれており、もしかするとこの時に派遣された陰陽師が祭祀を行ったのかもしれない。

米沢市の大浦b遺跡から見つかった具注暦は陰陽道の思想に基づいて書かれた暦ですが、これに記載されている干支十干などは現在の暦にも見ることができ、平安時代の以来の伝統が生きているといえるのではないのでしょうか。

現在に直接つながらないような平安時代も、意外にも身近なところに潜んでいるかもしれません。探してみたいかがですか。

### ギャラリートーク & 講演会

企画展示期間中のはギャラリートークと講演会を併せて行いました。

講演会では10月9日に米沢女子短期大学教授吉田欽先生、23日に山形大学准教授三上喜孝先生よりそれぞれ講演いただきました。

### 図録(概説書)頒布中!

詳しくは当館まで  
電話 0238-52-2585



頒布価格 2,000円

ました。短い時間でしたが、多くの方に聴講いただき、充実した時間となりました。

講演会の後は当館館長によるギャラリートークが行われ、実際に展示を見ながらの解説は、理解が深まったようです。

講演会とギャラリートーク



## 企画展 記念講演会

平成22年11月14日(日)開催

記念講演会を11月14日(日)に、山形考古学会副会長、佐藤庄一氏を講師にお招きし、当館研修室にて開催しました。

初頭の出羽国の様相を最新の研究成果を交えながら講演いただきました。講演の中で注目されるのは、城輪柵跡近くにある堂の前遺跡です。遺構や遺物の出土状況から国分寺ではないかと推測され、また最近、福岡県の研究者がこの説を補強するような論文を研究雑誌に掲載しています。



講演会の様子

さに解明されつつあるテーマといえます。

9月12日(日)に4年ぶりに縄文祭りが開催されました。

今回の開催は、縄文祭り実行委員会が主催となり、当館も共催して歴史公園にて行われました。時折小雨が降る曇天模様でしたが、多くの方に参加をいただき、楽しい一日となりました。

恒例の縄文鍋と古代米の餅も好評のようでした。

イベントの目玉としては、隣県の仙台市秋保を拠点に活動している民族舞踊集団「ほうねん座」を招き、個性的な踊りを披露いただきました。

その他、流しそめんコーナーや、歴史公園管理組合をはじめ地元で活

# 縄文祭り再び!

動している各種団体の方の出店、当館からは、縄文体験「弓矢飛ばし」を実施しました。

大勢の家族連れで大変賑わいを見せた縄文祭り、秋の始まりの季節の良い思い出になったようで「来年もぜひ」と次回の開催を望む声が聞かれました。



縄文祭りの様子

高島町史跡

# 高畑城

高島町大字高島

高島町高島の中  
心部にある。七世  
紀後半から八世紀  
にかけて最初の置  
賜郡衙の有力施設  
であったが、その後も置  
賜郡の有力豪族の居館が  
あり、十世紀ころ成立し  
た屋代荘の荘官館（平泉  
藤原氏の一族・樋爪御  
朗季衡）、その後不明の

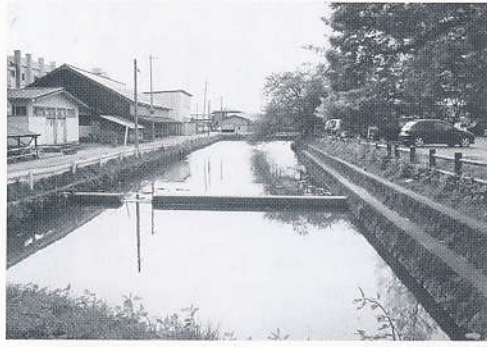


▲ 史跡の標柱

康暦二年以降は、伊達  
氏の置賜（当時は長井）  
統治の拠点の城となつた  
らしく、歴代当主の在  
城もあつたようである  
（本拠城は伊達郡西山城  
等）。

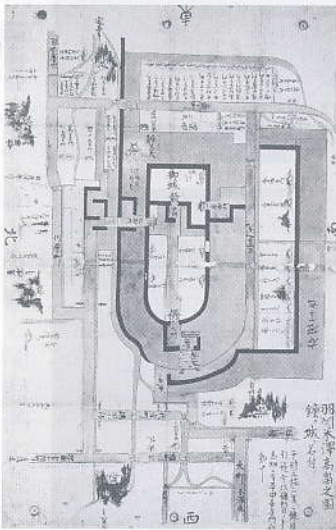
は織田氏居城となるも、  
再び天領代官所が置かれ  
る。  
元禄以前の城郭構造は  
不明であるが、左記の貞  
泉寺所蔵絵図により元禄  
年間の様子がわかる。

▲ 絵図（貞泉寺所蔵）



▲ 堀跡

には天領  
代官所が  
置かれる。  
明和四年  
（一七六七）  
天保二年  
（一八三一）



慶長三年（一五九八）  
以降は上杉氏の支城  
となるが、元禄二年  
（一六八九）

## 我が館の展示品 (25)

縄紋時代晩期の土器  
— 蟹沢遺跡 —

常設展示室の北側壁面  
（縄文時代のタイムカ  
プセル「最終コーナー」  
に、縄文時代後期から晩  
期の土器を展示していま  
す。

『東根市史』別巻上・考  
古民俗編（平成元年）に  
詳しく掲載されていま  
す。

展示してある蟹沢遺跡  
の資料は、東北地方晩期  
の亀ヶ岡式土器文化の影  
響下にあるもので、大洞  
式という型式名を有しま  
す。

当館所蔵資料は、その  
一部ですが、晩期中葉大  
洞C2式併行期を中心に晩  
期全般におよび弥生時代  
前期初頭の砂沢式併行期  
（弥生土器コーナーに展  
示）のものもあります。

蟹沢遺跡は、東根市小  
田島地区にあり、山形盆  
地東部に発達する乱川扇  
状地の、野川と白水川に  
挟まれた扇端部に生まれ  
た縄文時代晩期から弥生  
時代前期の大集落です。  
当館所蔵品は昭和四十二  
年に山形大学で調査した  
ときのもので、平成九年  
に山形大学から移管され  
た好資料です。



▲ 注口土器

蟹沢遺跡の資料総体は